

平成9年
自治会創立10周年

記念誌



江別市見晴台自治会



発刊にあたって

江別市見晴台自治会

会 長 佐々木 利夫

見晴台自治会会員の皆様と共に、ここに記念の日を迎えましたことを、心から喜びとするところであります。

光陰矢の如しと申しますが、想えば昭和62年4月、先輩諸兄の自治会活動を通じての街づくりに対する情熱と、お骨折りで元江別自治会21区が、元江別自治会から分離し、見晴台自治会が誕生しました。

昭和55年12月、元江別土地区画整理組合が事業に着手し、見晴台地域に800余区画の宅地が昭和61年10月までに完成し、更に、見晴台区画整理組合が、昭和63年から平成3年にかけて700余の区画が完成しました。

見晴台自治会が創立された当時の戸数は246戸であったと云われ、現在自治会の住民カードによる登録戸数は1,435戸（H9, 2月10日）でありますので、毎年平均約120戸の戸数がふえたということになります。

変遷する社会の中で、親睦団体としての自治会から、住民自治組織としての自治会へと脱皮し成長してきたことは、ひとえに先輩諸兄のご指導とご労苦の賜ものでありまして、心新たに敬意と感謝を捧げるところであります。

と同時に、この10年を大きな節目として、更に充実した活動を実践することが、これから私達に課せられた責務とも存じます。

高齢化社会を迎えての地域福祉、在宅福祉の問題を始め、青少年の健全育成など、その取り組みは、これからの自治会活動に対する極めて大きな課題とも存じます。

このことを心しながら、新たな住民活動として時代に対応する真の住みよさづくりのために、本誌が綴る10年の歩みが、いささかでもその糧となればと存ずるところであります。



お祝いのことば

江別市長 小川 公人

見晴台自治会創立10周年誠におめでとうございます。

心よりお祝い申し上げます。

見晴台自治会は、昭和62年江別市一丸となって全国高校総体の成功に向け気運が高まっている中、250世帯による創立でありました。以来10年の間に世帯数が増え、現在約1,450世帯という市内第2の大自治会に成長されました。

自治会発足当初からの加速度的な個人住宅の建設ラッシュや、近隣の大型店舗等の進出により、地域を取り巻く環境は著しい変化を見せており、市内で最も歴史ある「対雁小学校」は、児童数1,000名を越えるマンモス校でありましたが、今春の「いずみ野小学校」の分離開校により、適正規模の小学校に変身したわけでございます。

このような状況の中で、今日まで住民の心を一つにして地域の発展のためにご尽力され、住み良い地域づくりに邁進された歴代の自治会役員の皆様はじめ地域住民の皆様に深く敬意を表するとともに、心から感謝を申し上げます。

江別市は、いま人口が11万7千人を越え道内8番目の都市に伸長いたしました。が、「市民自治の確立」は、同時に市民主体のまちづくりを進めて行くことであります。このため「市長への手紙」事業や「市民円卓会議」の開催など、行政への市民参加の機会を拡大してまいりますので、21世紀にふさわしい「ふるさと江別」を創造するためにも、皆様方の一層のご理解とご協力をお願いするものであります。

終りになりますが、今後とも見晴台自治会が、連帯感に支えられた活力ある地域社会づくりを推進されますとともに、記念すべき10周年を一層の飛躍台として、益々充実発展されますことをご祈念申し上げまして私のお祝いの言葉といたします。



お祝いのことば

江別市自治会連絡協議会

会長 山田光久

見晴台自治会創立10周年、おめでとうございます。

記念の節目を迎えられ、地域住民の皆様には、さぞ感慨を深くされていることとぞんじます。

見晴台自治会が、昭和62年4月の発足以来、その地域において「ふれあい」をはじめ、「たのしみ」・「創造する」といった日常の自治活動を図り、その活動が年を追うごとに活発化し、会員相互の交流、親睦が深められておりますことは、誠に意義深いことと存じます。

これも偏に10周年に及ぶ先達の皆様方の地道な日常活動の賜ものであり、それを支えてこられた自治会役員の方々をはじめ、住民の皆様の努力の結果であろうと推察しております。

江別市自治連も昨年創立30周年を迎え、各種の記念行事を行ったところでありますが、その自治連も今、見晴台あるいは2・3の自治会が中核となって推進しているといっても過言ではなく、今後共、見晴台自治会と自治連が一体となって、住民の要望や、地域における様々な課題解決のため、努力していくことを念願しているところでございます。

終りになりますが、今後共見晴台自治会が、活力ある地域社会づくりを推進されることを期待するとともに、ますますの発展をご祈念申し上げて、お祝いのことばといたします。

《 目 次 》

発刊にあたって	江別市見晴台自治会会長	佐々木 利夫	1
お祝いのことば	江 別 市	市 長	小川 公人
お祝いのことば	江別市自治会連絡協議会会長	山田 光久	3
1. 見晴台と自治会誕生まで			6
(1) 見晴台地区の沿革			6
(2) 見晴台の由来			6
(3) 木製飛行機と滑走路			7
(4) 埋 蔵 文 化 財			7
(5) 自治会館と見晴台シルバーふれあい会館			7
(6) 自治会設立に至るまでの経過			8
2. 自治会活動の推移			10
3. 活動アルバム			13
4. 歴代自治会役員名簿			16
5. 自治会役員永年勤続等表彰			18
6. 記 念 文 集			19
(1) 創立10周年を迎えて	初代自治会長	石垣 準蔵	19
(2) お祝いのことば	2代自治会長	和田 一男	20
(3) 創立10周年にあたって	3代自治会長	佐々木利夫	22
(4) 4 番 通 り	自治会副会長	佐々木 亮	23
(5) 回 想 1 0 年	"	市川 一夫	24
(6) 自治会10周年を迎えて	"	田中 孝一	26
(7) 明るい黄信号の人生	初代シルバークラブ会長	進藤 弘	28
(8) 見晴台自治会創設期の思い出	初代会計部長	遠藤 喜悦	29
(9) 歴代婦人部長として	初代婦人部長	池田 和子	31
	2代 "	鈴木 春江	31
	3代 "	常見 仁子	32
	4代 "	山本由美子	33
(10) 自治会創立10周年を祝して	シルバークラブ副会長	岩崎 豊子	34
	"	沢本 清	34
(11) 妻からの感謝状	" 会員	佐々木富士子	35
(12) 短 歌	常見 菊美・遠藤千恵子・魚住和佐子・伊藤礼子		

7. 資 料	37
昭和61年10月5日付 北海道新聞切抜き	37
平成3年8月30日付 “	38
(1) 見晴台自治会規約	39
(2) 見晴台自治会館使用規程	42
(3) 旅費・通信費及び報酬等支給規程	51
(4) 自治会事業執行規則	52
(5) 見晴台自治会自主防災に関する規則	53
(6) 見晴台自治会館整備基金積立及び使用内規	55
(7) 自治会館使用内規（同会館管理責任者関係）	56
(8) 慶弔見舞に関する内規	57
(9) 葬 儀 の 手 引	58
自治会会員名簿（平成9年3月1日現在）	65
編集あとがき	82

伊 藤 礼 子

あらうれし 10周年の 佳節かな
冬と春 綱ひくごとく 春の音

1. 見晴台と自治会の誕生まで

(江別市元江別土地区画整理組合事業完成記念誌より)

(1) 見晴台地区の沿革

石狩川の支流、豊平川沿いに見晴らしの良い丘陵地帯のあったこの地は、約4千年前から先住民族の住んでいたところであり、多くの遺跡が発見されています。当地の開拓は、屯田兵村として明治17年ころから行われました。

広くは農耕地として、その後一部は競馬場に供されましたが、終戦近く昭和18年には国策によって、この付近一帯は飛行場へと変貌し、王子航空機の制作した木製飛行機が任地へ向かって飛び立ったということです。

戦後農地解放となり、そして時が流れ、昭和40年代後半になって札幌圏への人口集中、その発展に伴い、この地域近郊まで都市化が進むにつれて、王子製紙株)をはじめ地元地権者から宅地化推進の声が高まりました。

当時戸数は20戸、この地の関係者は宅地化計画の取りまとめに幾日夜、苦節5年の設立準備期間を要して、ようやく土地区画整理事業に取り組んだのでした。本事業は組合認可から満6年の歳月を経て、昭和61年10月15日ここに完成したのであります。

(2) 見晴台の由来

いま火力発電所のあるあたりに、かつて坊主山という小さい山があって、冬はスキーで賑わったものです。その隣、対雁墓苑を挟んで西にも小高い山がありました。高さがせいぜい10メートル程の小さな山でしたが、周り地形が低い窪地の原野になっていたところもあって、とても見晴らしがよく、このあたりの子供たちの手頃な遊び場になっていました。この小山は、昭和19年に王子航空機が木製飛行機を製造したとき飛行場の整地に伴って、また坊主山は火力発電所建設の際に、いずれも切崩されて姿を消してしまいました。

見晴台という名称は、組合が保留地を分譲するにあたって、この見晴らしのよい小山にちなんでつけられたものです。

現在も、見晴台のある一帯はやや丘陵になっていて、西にはるか手稲連峰、北に増毛連峰が望まれ、夜は札幌の夜景が見えるという、大変景色の優れた宅地になっています。

(3) 木製飛行機と滑走路

昭和19年、王子製紙(株)江別工場が国策によって、王子航空機となり、木製飛行機の製造に着手しました。キ-106とよぶ陸軍の戦闘機で、胴体と翼をエゾマツで作ったのです。元江別の原野を買収して飛行場に、誘導路や滑走路も作られました。1号機が完成したのは20年5月で、全従業員の見送りの中ここから飛び立っていきました。3号機まで完成したところで終戦、王子航空機も戦後は再び製紙工場にもどり、飛行場は放置されたままになっていました。見晴台の造成のときこの滑走路を撤去しましたが、幅45メートル(一部19メートル)、延長215メートルで、その先更に3倍位の距離までびっしり砂利がしきつめてありました。

滑走路のコンクリートの厚さは約15センチ、木製飛行機にとってはこの程度で充分だったのでしょうか。40年の月日を経て大分風化していました。

(4) 埋蔵文化財

江別市の中央部に長くのびる丘陵地帯は、北海道考古学発祥の地といわれるように数多くの貴重な埋蔵文化財が眠っています。

見晴台は、この丘陵の一角にあたっていて、以前から遺跡の存在が知られていました。そのため、造成工事にあたって組合が協力し、江別市教育委員会の手により、この発掘調査が行われました。発掘は、「元江別3」および「旧豊平河畔」とそれぞれ呼ばれている2カ所の遺跡について行われ、縄文中期(約1,500年前)のものまで、多数の遺跡や遺物、石器、土器などとともに、統縄文期の住居跡も約40軒みつかっています。

この辺りから当別方面へかけて古代の文化の中心地と考えられていて、これらの遺跡はその一部とみられます。発掘された埋蔵文化財は大麻にある江別市文化財事務所に展示されており、古代の暮らしをしのぶことができます。

(5) 見晴台自治会館と見晴台シルバーふれあい会館

自治会活動の拠点である見晴台自治会館は、昭和61年6月16日に起工式を行い、同年10月5日に完成、落成式を新設の会館で行ないました。晴れて見晴台自治会館の誕生をみました。総工費4千万円をかけ市内19番目の

自治会館として完成しました。当時の新聞記事からもその成りたちを見ることができます。自治会館は市内一のマンモス自治会の元江別自治会から、昭和62年分離独立する見晴台自治会住民の活動拠点として、利用にも便利な集会設備をした会館として、自治会発足よりひと足早く完成したもので当時の昭和61年10月5日付北海道新聞「近郊版」では別紙資料のように伝えていました。又、翌年昭和62年4月29日には同会館で自治会設立総会が盛大に開催されました。以後文字通り自治会活動の拠点として、活動の輪がどんどん広がり、しかも年々多岐にわたってきました。

平成6年には会館増築費865万円で増築が行われ、又、平成8年には床の全面改修と会館周りの付帯工事も行われました。

見晴台シルバークラブの活動拠点である「見晴台シルバーふれあい会館」は牧場町在住の土蔵辰馬氏によって、すべてが計画実現したものであります。

即ち、見晴台2番地内において、当時すでに解散していた元江別地区区画整理組合が、組合の事務所として使用していた建物を無償で、しかも移転費用も同組合の負担とさせ、更に共同募金江別支部から100万円の補助金を得て建物の補修整備、電気、水道設備等、直ちに使用できる状態で、見晴台自治会に引継いでくれたものであります。

昭和63年8月5日から使用開始とし、名称は見晴台シルバークラブ会員のアンケートによって決定しました。

(6) 見晴台自治会設立に至るまでの経過 (設立総会議案書より)

元江別自治会が一昨年度(昭和60年度)自治会発足20周年を迎えて記念行事を行ったことをご承知のことと思います。20年前に発足した当時に元江別自治会の戸数は僅か250戸だったといえますから、丁度現在の見晴台(21区)の規模と同じ程度だったわけです。しかし、現在の戸数は1,660戸に達し、まさに発足当時の6倍を越えて、江別市で第一のマンモス自治会に発展しました。

元江別自治会がこのように巨大化した要因としては、元江別区画整理事業が実施されたことが大きく影響していると言っても過言ではありません。(21区)が246戸を数え、更に続々と団地内で新築工事が行われている現況にあります。

土地売却後には当然住宅が建てられ入居して、世帯が多くなると地域活動が行われるのも、他地区の例から見ても当然の事であります。地域活動の場である会館の必要性については、土地区画整理組合の地権者各位には深くご理解をいただいて、会館建設資金の援助を得ました。これだけの資金でも建設できないため、市に対しましてもこの急増地域の実情を訴えて助成金をお願いしましたところ、この地区の実情を理解し地元住民の要望に応じて、助成を決定しました。この二つの資金で昨年10月、このような立派な会館を完成することが出来ました。地元住民からの負担なしで出来たことは、大変喜ばしい事です。

さて、自治会の運営上最も標準的世帯規模はおよそ500戸程度とされていますから、現在の元江別自治会はまさに三つの自治会を擁していると言えますのです。地域も広く、巨大化した自治会の円滑な運営を図ることは大変な事であり、役員各位が非常な苦勞をされているところで、分割の論議をされるのも当然の事と思います。一昨年から論議し検討されて、61年度の元江別自治会定期総会において、見晴台地区を分離する方針が明らかにされました。当然の成行きでもありましょう。つまり現状から見て、位置、将来性などを考慮し、見晴台地区が分離する諸条件を備えていること、加えて同じ見晴台に居住しているが、一部は対雁自治会に所属していて、見晴台自治会が発足されれば移りたいとの希望もあり、この世帯が加われば世帯は300戸を越えることにもなります。団地内には、売却済みの個人所有地が多くあり、過去の実績でも年間70戸程増え続けていることから、今後もこの勢いで増えていくことが予想される所です。

自治会を運営するには、地域内の皆様方のご協力がなければ出来ない事です。がこれに先立って立派な会館を建設し、落成まで奔走し努力した元江別自治会役員、並びに有志の皆様方に感謝するとともに、この会館を地区の拠点として素晴らしい自治会が発足される事を願うものであります。

誠に勝手ではありましたが、21区に居住する元江別自治会役員と、61年度の地区班長で自治会の設立準備委員会をつくり、地域の皆様方にご理解をいただくための会議を、1月下旬から数回にわたり協議し今日に至ったものであります。

(原文のまま掲載)

2. 自治会活動の推移

期 日	項 目
昭和61年度 10. 5	(見晴台自治会館完成・落成式)
昭和62年度 4. 29	自治会創立 第1回総会 (戸数 246 15班)
”	見晴台自治会規約施行
”	見晴台自治会館使用規程施行
6. 28	第1回 婦人部による廃品回収 (以下毎月実施)
7. 1	住民カード作成
7. 27	朝のラジオ体操実施 (8. 31まで) (以下毎年実施)
9.	婦人部研修旅行実施 (以下毎年実施)
3. 22	見晴台シルバークラブ結成 (会員 71名)
昭和63年度	
4. 1	対雁自治会(現6区の大部分)から見晴台地区居住者83戸 見晴台自治会に編入
”	区制を施行 5区24班に分割
”	見晴台自治会館整備基金積立及び使用内規施行
4. 17	第2回 定期総会開催 (戸数 395)
5. 12	元江別土地区画整理組合から寄付金 300万円
5. 21	少年野球クラブ結成 (会員 18名)
8. 5	老人クラブ集会所 見晴台シルバーふれあい会館 本日より使用開始
8. 7	第1回 七夕まつり実施 (参加者 60名 以下毎年実施)
8. 14	第1回 見晴台盆踊り大会実施 (以下毎年実施)
~ 16	(参加者 3日間延1,000人)
9. 15	第1回 見晴台自治会敬老会開催 (以下毎年実施)
1. 10	冬休みお楽しみ会 (参加者 92名 以下毎年実施)
平成 元年度	
4. 23	第3回 定期総会開催 (戸数 493 5区 28班)
5.	花いっぱい運動の実施(シルバークラブと共催 以下毎年実施)
9. 15	ゲートボールコート完成し、使用開始

10.	1	民生委員・児童委員の推薦（2人）
12.	1	自治会館に専任会館管理人を置く
	”	見晴台自治会館使用規程内規（会館管理責任者事項）施行
1.	6	冬休みお楽しみ会をスノーフェスティバルと改称開催 (以下毎年実施)
3.	31	自治会特別会費100円を廃止
平成 2年度		
4.	1	旅費・通信費及び報酬等支給規程施行
4.	22	第4回 定期総会開催（戸数 609 8区 37班）
8.	11	見晴台キャンプ村開催（以下毎年実施）
8.	14	クラブ「豊太鼓」結成
8.	14	盆踊り大会を「見晴台夏祭り」と呼称し、第1回大会開催
~	16	（参加者 3日間延3,500人 以下毎年開催）
9.		見晴台土地区画整理組合より街路灯設置費として250万円 自治会館前駐車場の舗装・太鼓1台購入 会館前に街路灯2基設置 それぞれ寄贈あり
1.	20	自治会新年会開催（以下毎年開催）
平成 3年度		
4.	21	第5回 定期総会開催（戸数 730 8区 41班）
7.		見晴台土地区画整理組合よりゲートボールコート一面 及び街路灯3基設置（寄贈）
7.		一般公募により、地域内道路名称決定 （見晴台公園通り・並木通り・ふれあい通り）
8.		地域内に郵便ポスト設置
平成 4年度		
4.	1	見晴台自治会事業執行規則施行
4.	26	第6回 定期総会開催（戸数 945 9区 55班） 全上総会において、環境部・文化部・社会福祉部を新設
6.		市補助金250万を受け、太鼓・宮太鼓6台 大締太鼓1台を購入
8.		自治会館大広間2階に物置設置
10.	1	民生委員・児童委員の推薦（3人）

11. 1 ～ 3	第1回 文化祭開催 (以下毎年開催) (出品195点 入場者329名)
11. 14 11.	見晴台郵便局開局 見晴台土地区画整理組合より、自治会館に時計の設置 自治会各世帯にタオルの寄贈あり
平成 5年度 4. 25 2. 10 ～ 19 10.	第7回 定期総会開催 (戸数1,150 10区 61班) 全上総会において、冬期排雪費用として月額200円値上し 会費を月額600円とする 全地域内除排雪の実施 (以下毎年実施) 見晴台土地区画整理組合より、自治会館増築費の一部として 寄付115万円を受ける
平成 6年度 4. 24 10. 23 2. 19 3. 1 3.	第8回 定期総会開催 (戸数1,300 13区 74班) 慶弔見舞いに関する内規施行 自治会館増築 (62,37㎡) 完成 江別市議会議員候補者に対し自治会推薦状交付 見晴台自治会だより発行 (以下毎月発行) 見晴台1番地53区画(王子不動産KK造成地)編入
平成 7年度 4. 9 4. 10. 1 1. 17	第9回 定期総会開催 (戸数1,350 13区 78班) 学校週休5日制対策 茶道・将棋クラブ発足 (以下定例実施) 民生委員・児童委員の推薦 (5人) 自治会新年会・マージャン大会を開催 (以下毎年開催)
平成 8年度 4. 1 4. 21 5. 12. 5	葬儀の手引き施行 第10回 定期総会開催 (戸数1,380 13区 81班) 自治会館床全面改修 見晴台13番地15区画 (平成建設KK造成地) 編入

3. 活動アルバム



自治会四役会



自治会役員会



年度最終合同役員会



10周年記念プロジェクトチーム



学校週5日制 対策行事



将棋



茶 道 (茶道の勉強)



百人一首



豊太鼓



見晴台パークス



夏まつり 仮装おどり



自治会 敬老会



文 化 祭



婦人部研修旅行



婦人部講習会



廃品回収 青少年育成部
婦人部

4. 歴代自治会役員名簿

自治会創立から現在まで

役 職 名	昭 和 6 2 年	昭和63～平成元年	平 成 2 ～ 3 年
会 長	石垣 準蔵	石垣 準蔵	和田 一男
副 会 長	印部 英一・佐々木利夫	印部 英一・進藤 弘	塚本 慶明・小西 信雄 印部 英一・池田 和子
総務部正副部長	和田 一男・大森 彪	佐々木利夫・壘野 浩司	常見 邦夫・秋山 博
会計部正副部長	遠藤 喜悦	遠藤 喜悦	佐々木 亮・渡辺 勝義
青少年育成部 正副部長	依本 正平・高橋 憲一 十良沢 茂	依本 正平・高橋 憲一 十良沢 茂・早坂 誠治 石坂 実	木滑 満・十良沢 茂 井下田 実・南 寿春 米屋 礼子・竹谷 敦子
防犯部正副部長	西村 信夫・竹田 誠	西村 信夫・竹田 誠	(H2年度より防犯部と交通安全部を合わせ 交通安全部となる)
交 通 安 全 部 正副部長	南 寿春・手塚 昭夫	手塚 昭夫・南 寿春	西村 信夫・垣野 訓男 藤田 修一・奈良崎清治
火防衛生部課長	鈴木 芳男・外山 茂	鈴木 芳男・渡辺 勝治	鈴木 芳男・山崎 忠志
福 祉 部 長	田中 雄一	田中 雄一	(廃止)
婦人部正副部長	池田 和子・一柳 祥子 鈴木 春江	池田 和子・鈴木 春江 木滑 幸江・梶井 祥子 藤原 三枝・常見 仁子	鈴木 春江・常見 仁子 藤原 三枝
会館運営部長		遠藤 喜悦	伊藤 勝利
監 事	市川 一夫・佐々木 亮	市川 一夫・佐々木 亮	山岸 勝明・田中 孝一
区 長		大森 彪・竹村 英夫 小西 信雄・山崎 忠志 常見 邦夫	市川 一夫・吉田 祐典 堀 豊・土田 耕三 山口 忠志・石坂 実 米屋 博人・小森 幾二 園部 真幸

役 職 名	平成 4 ~ 5 年	平成 6 ~ 7 年	平成 8 ~ 9 年
会 長	佐々木利夫	佐々木利夫	佐々木利夫
副 会 長	塚本 慶明・池田 和子 小西 信雄・佐々木 亮	佐々木 亮・市川 一夫 斎藤 良三	佐々木 亮・市川 一夫 斎藤 良三・田中 孝一 (H. 9. 1/24死)
総務部正副部長	常見 邦夫・石坂 実	常見 邦夫・南 寿春	常見 邦夫・南 寿春
会計部正副部長	岡田 典雄・伊藤 勝義	伊藤 勝義・坪山 幸夫	西村 光治・半沢 豊
青少年育成部 正副部長	木滑 満・井下田 実 南 寿春・川端 啓司 仲西 正彰	木滑 満・井下田 実 仲西 正彰・和田 正司 林 哲夫	木滑 満・仲西 正彰 和田 正司・落合 利昭 赤坂 光弘
交通防犯部 正副部長	西村 信夫・土田 耕三 小林 実	村松 光男・金沢 純一 藤島 秀夫	村松 光男・金沢 純一 藤島 秀夫
火防衛生部 正副部長	山口 忠志・近藤 光一 奈良崎清治	石坂 実・熊本 良広 薮 研治	松本 敦・近藤 克馬 山田 薫・村上 文彦
社会福祉部 正副部長	市川 一夫・渡辺 宗守 塙 宣彦	高井 政信・桜木 光雄 魚住 泰久	魚住 泰久・赤石 久志 安田 聡
環境部正副部長	斎藤 良三・山崎 忠志 元田 国光	元田 国光・山崎 忠志 佐藤 良次・米倉 哲也	元田 国光・山崎 忠志 佐藤 良次・米倉 哲也
文化部正副部長	吉田 祐典・荒木 正幸 松原 秀雄・浦本 理作	荒木 正幸・福島 明仁 岡崎 良生・土井 洋伸	龍本 英世・相沢 博 鈴木 博明
会館運営部長	伊藤 勝利	石井 次雄	石井 次雄
婦人部正副部長	常見 仁子・亀谷喜代恵 南 真知子・大宮 節子 関沢由紀子・今井 邦子 山下美智子	常見 仁子・亀谷喜代恵 大宮 節子・田上千鶴子 小滝 信子・中村 仁子 山本由美子	山本由美子・村田 陽子 刈谷 悦子・藤田 真弓 藤山由利枝・大竹 幹子 長岡 達子・川村 久美 中村 玲子・相河 房子 黒宮奈穂子・森口 英子
監 事	山岸 勝明・田中 孝一	田中 孝一・岡崎 晃三	岡崎 晃三・山田 敏夫
区 長	菅原 闕司・菅原春江子 (H. 5. 7死) 小西 辰雄・小林 剛 石向 成雄・古川 正男 北口 邦男・米屋 博人 小森 幾二・岡部 真幸 中村 一治・龍本 英世	藤原 幸雄・南 三雄 広田 謙治・峯村 照男 野村 信一・栗山 泰則 三橋 勝・亀岡 哲 杉本 守弘・山田 敏夫 久守 信幸・龍本 英世 下村 良作	藤原 幸雄・南 三雄 真鍋 幹男・吉田 治之 野村 信一・長洞 秀義 三橋 勝・清野 雅 玉槻 伸幸・江良 従吾 常盤井武是・宮本 雅治 松下 幸治

5. 自治会役員永年勤続等表彰

- (1) 平成2年 4月 石垣 準 蔵 氏 感謝状と記念品
- (2) 平成4年 4月 印部 英 一 氏 自連協会長より感謝状
- (3) 平成6年 4月 池田 和 子 氏
小西 信 雄 氏
西村 信 夫 氏 以上 功績を讃えて「盾」
- (4) 平成8年 4月 石坂 実 氏
井下 田 実 氏
常見 仁 子 氏 以上 功績を讃えて「盾」
- (5) 平成8年 5月 佐々木 利 夫 氏 自連協会長より感謝状
- (6) 平成8年10月 常見 邦 夫 氏
常見 仁 子 氏
石坂 実 氏
南 寿 春 氏 以上 自連協会長より表彰状
- 井下 田 実 氏
山崎 忠 志 氏
木滑 満 氏 以上 自連協会長より感謝状

5. 記念文集



創立10周年を迎えて

初代自治会長 石垣 準 蔵

元江別自治会の1区で市内ののどかな酪農と草地の地域が、札幌の急激な発展に伴い、大麻、文京台の次に、昭和55年秋にこの地区が市街化区域になると、地権者による宅地組合が出来て、都市型宅地として5丁目道路も含めて開発することになった。58年秋に建て売り住宅が建ち、翌年からも随時建て売り住宅が完成し、個人の建築も含めて所帯は年を追う毎に急増し、一つの区で18班に広報を配布するだけでも片手間では困難し、元江別自治会の役員に区を増やすことを提案しました。

元江別自治会も地域活動では市内一番の大所帯で困っている時で、分離を中心に真剣に討議を重ね、問題は宅地開発の結果に起きたこと、宅地整理組合で（以後文面の都合で宅地組合と書く）宅地として販売した商品は売れた後に入居者が多くなって居住地区の環境整備が求められ、夜道が暗ければ街灯の問題、世帯が多くなるに連れ地域活動も行われる。当初から大規模住宅地を計画して出来た街、地域活動の場所として会館の必要は当然ですが、住宅街となった後の心配を宅地組合に関係の深い元江別自治会副会長でもある 土蔵辰馬氏 に訴えて同意を得、土蔵氏から宅地組合の理事長を通して、組合地権者各位に説明し、深い理解を得て整理事業の中から、造成地の街灯設置と会館建設資金の助成をして戴くことになりました。

事前に、元江別自治会で仮称第2会館建設資金として、行政に会館建設の助成金を請願しており、地域の所帯から1円の寄付もなしで会館が建設される事と、自治会も発足してない時に、土蔵氏を委員長に地域から3名が会館の建設委員になり、他の自治会館の長所、短所を見てまわり、使い勝手の良い会館を建設施工者に依頼した。

ステージを2重に仕切り、葬祭設備を常設する特別な企画でした。会館の建設に当たり元江別自治会予算で、61年春の竣工式から建築上棟式まで多くの地域住民を集め、餅撒きをして祝いました。秋の落成式まで3回の準備は全て元江別自治会の役員と建設工事関係者、地域から私たち会館建設委員で、落成式には宅地組合関係、市長、議長、道議他多くの来賓を迎え、盛大な落成式でした。たくさんの関係者のお陰で実現出来た会館です。

翌年の昭和62年、地区の世帯数246戸、建築中で入居予定の家も多く、急遽地区の名簿により地域活動の仲間を求めました。この冬に越して来たばかりと断られる始末だが懸命に説得に回り、地域活動の差し迫った事態の理解を求め、自治会の組織づくりの仲間を募りました。

この地域を良い街にするため、積極的に当時共に協力し、自治会の創立に向けて活躍した役員の方々に、誌上を借り深く感謝申し上げます。

当時は、正式地番が元江別という農地の地番で、同じ地番に何十軒も在って混乱が多く、地域の各班に町名アンケートを出して集約し、市の都市計画と相談して62年2月、夢のある街、現在の『見晴台』になりました。

昭和62年の春に元江別自治会の応援を受けて『見晴台自治会』が誕生し、素晴らしい街にしたいと願い活動してから10年、発足当初とは数倍の街に成長を続ける事を慶び、現在地域の為に活躍中の自治会役員の皆様を応援します。



お祝いのことば

第2代見晴台自治会長

和田 一 男

見晴台自治会が元江別自治会から分離独立してから早10周年を迎え、立派な自治会に成長したことは、誠に同慶にたえません。

今年2月20日現在で戸数1,435戸、人口5,281人となり、江別市内の自治会の中でもトップ級の大自治会となりました。

真新しい住宅が建ち並ぶ見晴台地域の発展を見るにつけ、発足当時の頃を思い出して感無量になります。

私が見晴台に住み始めたのは昭和61年1月で、その頃はまだ地名は元江別であり、元江別自治会の一部として運営されていた訳で、この地域担当の区長だった石垣準蔵さんに誘われて、元江別自治会の定期総会に出席したのが自治会活動に携わるきっかけになったのでした。

当時の元江別自治会は、既に1,600戸を有する大自治会になっており、当然のことながら自治会分割の話題が出ていた時でした。

地域的状況からして土地区画整理事業が施行され、急速に人口増加が予測された見晴台地区が分割計画指定地区となったのは、当然の成り行きでありました。

自治会の定期総会に提案され、勿論満場一致で可決されたことで、本人が知らぬうちに役員にされていた私と、区長をされていた石垣さんと共に分離独立の世話人に指名されたのでした。

当時の戸数はやっと250戸程でしたから、果たして単独自治会として運営して行けるのか心配はありましたが、元江別自治会では親子自治会として運営に協力する、又お隣りの対雁自治会は兄弟自治会として友好を深めていこうと激励され、創立総会に向けての作業をスタートさせたのでした。

幸いなことに、区画整理組合や市の援助によって自治会館が建てられたこともあって、地域に独立の気運が生じていたことも作業を進める上で役立ったことでした。

短い期間内で事業計画案、予算案、規約案等を作り、十分な検討する時間もなく強引に創立総会を開いたような気がします。

同じ地域に住んでいても殆ど知らない人ばかり、誰に役員になってもらうか、先ず人集めに苦労したことは言うまでもありません。汗を流した甲斐があり比較的若い人達が役員を引き受けてくれ、新自治会役員が誕生したことは、後々の自治会運営に大きな力となり、急激に膨れる自治会を支える屋台骨となったのです。

新しい地域だけに、環境整備のための懸案事項も幾つかありましたが、土地区画整理組合からの援助と協力によって解決したのも少なくありません。

人口、戸数共巨大化した自治会を支え、運営される役員の方々には本当にご苦労なことであり、感謝しなければなりません。

潤いのある住み良い地域住民生活の実現に向けて、地域の人達が力を併せ、それぞれの役割を果たすことが大切なのではないでしょうか。

見晴台自治会が、創立10周年の意義深き記念の年を迎えるにあたり、過去の思い出の一端をしたため、今後更に輝かしい歴史を積み重ね、発展向上することを期待します。

自治会役員並びに会員皆様方のご健勝を心から祈念申し上げ、お祝いのご挨拶といたします。



創立10周年にあたって

3代自治会長 佐々木 利夫

自治会に係わりを持つようになって、10年たちました。昔は10年一昔といいますが、今では二むかしくらいになるのでしょうか。そのうち2年都合によって自治会から離れましたが、10年のうち半分の5年を会長という役をおおせつかって他役員、そして皆さんに支えられて今日に及びました。

10周年記念事業プロジェクトチームの会合で、永年勤続自治会役員を表彰してはという案もでしたが、歴代自治会役員名簿を作って眺めてみると、表彰該当者はまだ現役の役員です。

議員さんなら、自分の歳費を自分で決めて、いわゆるお手盛りで決められそうですが、自分を自分で表彰するのは滑稽でナンセンスだと思ひまして、表彰は更に10年後の人達に考えてもらうことにしました。

見晴台に居を移し、半年もたった頃でしょうか、かんしんに時々地域を巡視(?)していた元、元江別自治会21区区長の石垣さんと、隣人の班長をしていた岩崎さんに、近いうち見晴台自治会を創るので、何の役でもいいから役員になって協力してくれないかと誘われました。

当時、現役を退職したばかりでまだ若かったから、何か適当な仕事がないかと探しておりましたが、再就職するまでの間と誘われるまま応諾したのが、現在をつくる一因でした。そして5年後、自治会役員選考委員のメンバーが数人自宅に3日3晩、自治会長を引き受けてくれるまで、何日でも毎晩でもと、半ば脅迫(?)され続け、会長とは全くその器とは思っていなかったのに、遂に陥落させられてしまいました。選考委員もご苦労さまでした。

会長就任と同時に頭を悩ましたのは、豊太鼓練習の騒音対策でした。市から補助金を受け、防音工事を施した自治会館増築によって1年半を費やし、やっとクリアーこれでひとまず安心と思っていた時、今度は会館の床が腐って抜けたという報告にびっくり仰天、建築後10年もたっていないのにナンデ?でした。

建築業者の責任、建物管理の不充分、土壌、立地条件劣悪等々、原因を追及しても埒があきません。建築業者と交渉を持つこと10数回、地元出身市議に市長直訴に

よる補助金獲得等、先輩諸兄及び元江別自治会の好意と努力によって、自治会館建設を地域に住む人達は1円も出すことなく現在に至った建物を、使用できなくなったり金を出してもらっては申し訳ないと、他の役員の協力も得て、一生懸命努力したつもりです。会館問題が一段落すると同時に、10周年記念事業に取り組むことになりました。これはまだ途中ですが、このエッセーが活字になって皆さんの目にふれる頃は、これも一件落着していることでしょう。

終りに、よき理解者で協力的であり、次期会長候補として再有力であった副会長の斎藤良三さんが、クモ膜下出血で突然1月24日亡くなったことは、我が子を失ったようなショックで悲痛のどん底でした。故人の冥福を心から祈る次第であります。

地域のみなさん方には、益々のご健康と、ご多幸を心からご祈念申し上げ筆をおきます。



4 番 通 り

副会長 佐々木 亮

私が現在地（見晴台32番地の6）に居住したのは、昭和59年9月である。地番は元江別753番地で元江別自治会に属していた。

当時、4番通りの5丁目～6丁目約600メートルの間に、見晴台側には7戸の家屋が点々と建ち並んでおり、現在の中心部は宅地造成されていたが、ほとんどが空地となっていて、送電線の櫓、焼却処理場の高い煙突が展望され、時には野狐が現れ4番通りを悠々横切って、南側の元江別本町地区の中に消え去る姿も見られたものである。

又、冬は市によって長い雪の壁が設営され、路上の吹き溜まり防止をしていたことを思い出す。

一方、交通の便としては、夕鉄バスが日に3本、町村農場方面から5丁目に入り6丁目が高砂町方面に南下しており、利用度は少なく、3番通りまで出て中央バスを利用したものである。（昭和61年1月から地名が見晴台と改められた。）

その後、中央バスも運行を始め、通学、通勤が便利となり、更に平成2年・3年にかけて、4番通りが大改造され、更に車道9メートル、左右の歩道が各4、5メートルで江別市の木「ナナカマド」が並木として植えられ、幅員18メートルの完全舗装道となった。

交通網も順次増便され、現在では、中央バスが江別駅・野幌駅方面に各20本、夕鉄バスが高砂駅方面に5本と充実し、大勢の人が利用するに至っている。

また広い歩道は、中・高校生の登校、下校を始めとして若人、壮年のジョギングや散歩等、さまざまな姿で賑わっている。

現在、見晴台町内から4番通りに出る道路は、5丁目・6丁目を除き、学園通りを中心とし左右併せて6本が丁字型で交差（いずれも信号機の設置はない）しているが、私の記憶では今までに事故が皆無であり、これからも無事故を願っている。

交通量の増加に伴い、路上には空ビン・空カン、そして犬の糞の放置も増えている。人的行為であるだけに残念に思っている。

4番通りは今では幹線道路であり、近い将来は札幌市へ直通するものと確信している。



回想10年

副会長 市川 一 夫

私どもがこの見晴台に移り住んだのは昭和55年12月の下旬、当時の地名は元江別、区画整理組合は出来てはいたが、私の1日も早く自分の土地に家建てたいとの願いは遅々として進まず、一時は他に代替地を求めようと考えたこともありました。私には事情があって建築を急いでいたので、ある地主さんに頼んでもらい工事に支障がない場所と換地をしてもらって、ようやく建築を始め、一足早く宅造地内に念願の我が家を持つことが出来ました。

当時我が家の環境は、三方は雑草が生い繁る原野で遠見のきく、それは見晴らしの良い場所で、夏は2階の窓から遠く札幌の花火大会を見ることも出来ました。

住宅は4番通り5丁目角から対雁小学校に向けて、数十戸の家が6丁目側の角に数戸、4番通りの5丁目と6丁目の中間に理髪店を含めて3戸の住宅があった。

この地域を元江別自治会21区と云いました。私はこれからの人生を、楽しく

住みよいところで過ごしたいと常々思っていたので、先ずご近所へのご挨拶を済ませて、区長・班長宅に伺って引っ越しのご挨拶をし、併せて自治会への入会をお願いをして来ました。私はこの宅造地内の第1号であり、又、自治会への入会も第1号となって思い出深い所となりました。

翌年春には本格的な稼働が、第1期工事として4番道り6丁目寄りから始まったが、特殊な大型のブルドーザーが5・6台、並列して表土を掘り起こしながら力強く進む光景に目をみはり、工事規模の大きさを実感したものでした。

時には江別特有の風で土ぼこりが舞い上がりそれは大変な迫力で、まるで戦場を縦横に駆け回る戦車群を思わせる程でありました。それだけに回りの方々は騒音と土ぼこりに悩まされ、大変ご苦勞をされたのではないかと思います。

このような状態が数年続き、その内に新しい住宅が次々と建ち始めて、新しい街のいぶきを実感されるようになった頃、区長が来て自治会ではこの地区の分離問題が議題に上がっているのです、この春の総会にはぜひ一人でも多く地域の人達に出席してほしいと言って来たので、それまで出席したことのない私も、元江別自治会総会に始めて出席いたしました。

宅造工事も順調に進み、精算事務の進む中で、見晴台自治会館も完成しました。

昭和62年4月には元江別自治会より分離して見晴台自治会が創立しました。

私も誘われるままに役員を引き受けて以来、今日まで引き続きやってきました。

けっして好んでやってきた訳ではないが、頼まれると断りきれない性格的弱さとポリシーと言える程でもないが、この地を人生終えんの地になるものと思い、今のうちに私に出来る事で、お役にたてればと考えて引き受けて来ました。

これが今までに多くの人達に支えられ、生かさせていただいた者として、感謝の思いで参加させていただく事も、社会への還元になるかと考えましたからで、この地区が住みよく、私の街、私達の街と、共に誇れるような素晴らしい街づくりに、何らかの形で、皆さんと共に参加していきたいものと考えています。

この機会に特に希望したいのは、会員のなかには多くの優れた人材が、大勢地域にはいらっしやるものと私は思います。

自治会の発展のため、更なるお力添えをいただきたいとお願いして、大変長くなりましたが、これから益々自治会の活動が発展をし、隆盛をきわめられる事を祈念して筆を置くことと致します。



自治会 10 周年を迎えて

副会長 田中 孝一

定年退職後の住まいをと考え多くの方々と同様、札幌近郊を始め積雪の少ない地域など、既に求めていた霊園との関わりも考慮しながら団地巡りをしました。

住宅情報誌で見た元江別土地区画整理組合の記事は、昭和53年ころ知人の新築祝いで中央町を訪れた際、近所に住宅も殆どなくJR野幌駅から随分遠い所でバスもなく、他に手段を持たない先輩が、よくこんな所に住まいを持つ気になったものと思った地点から更に遠い所でした。

現地を見るだけでも見ておこうと訪れてみると、細い道路（現4番通り）の北部の草原の中にあっただいさな農業共済組合が立派な施設に代わり、4番通りは舗装され、元江別（現見晴台）一帯は既に団地の形態が整い、地権者を含め100戸近い住宅が建っていたように思います。

当時を思うと、7～8年で大きな変貌を見ているのに驚きを覚えたものです。

昭和60年住民の一員になったのですが、江別育ちの知人によると元江別一帯は大きな沢（見晴台公園から南）があり、正隆寺（6丁目）からバス停見晴台（5丁目）付近に向けて、滑走路跡や競馬場があり、子供のころよく遊びに行ったものだと聞かされたものです。

元江別を知るには先ず江別を知らなければと、機会をみては公民館の江別叢書（江別にいきる）を読み、資料館や公民館に足を運び、歴史講座や歴史探訪に参加し、知識の収集に努めました。知れば知るほど江別は歴史の宝庫のように思われます。

平成5年江別出身の作家田中和夫氏から、江別叢書「木製飛行機キ106」が完成したと贈呈を受けました。

これは『江別市から江別叢書の執筆を依頼された際、木製飛行機制作に纏わる記念碑は、見晴台自治会館前の記念碑の2枚の銘板能美であることを知ったことから、過去にNHK札幌放送局のドラマ「幻の戦闘機キ106」の脚本を担当した

ことがあり、この機会に木製飛行機をテーマとして取り上げ、江別の歴史として残すことに使命感を感じた』と、熱っぽく語っていました。

この叢書によると、昭和55年6月の航空写真には滑走路跡がクッキリと見え、王子航空機江別製作所（現王子製紙江別工場）から滑走路までの誘導路も白線として鮮明に写し出されています。

今もその一部が4通りから分岐し、住宅街の中を北に向かって道路として残っています。

宅地造成前の見晴台は、5丁目沿いの住宅と対雁小学校、正隆寺等が見られるだけのようです。

その滑走路も昭和19年夏着工以来、終戦間もない昭和20年8月23日ころ最後の木製飛行機キ106（3号機）が飛び立つと同時に、短い歴史に終局を迎えました。広大な飛行場は、戦後食料生産に活躍した農地としての使命を終え、昭和55年の宅地造成開始に伴い近代的な住宅地に生まれ代わり、瀟洒な住宅が建ち並ぶ街並みから明るい子供たちの声が聞こえる今日この頃です。

見晴台自治会は創立10周年を迎えましたが、この間自治会創設から会館の建設を始め、地域の発展と会の運営に関わられた、多くの先輩各位のご労苦に敬意を表する次第です。

大きな組織も分割を考える時期を迎えています。日々の自治会活動の一つ一つが、将来子供達の故郷の思い出として心に刻んで行ければと願っております。

より一層皆様のご協力とお力添えをお願いするとともに、今後益々見晴台自治会と地域の発展を祈念する次第です。

自治会の10周年記念の祝とふ

背なの丸みも正して歩まむ

常見菊美



明るい黄信号の人生

初代シルバークラブ会長 進 藤 弘

10年前、自治会長さん及び担当役員の勧めで、待ち望んでいる老人クラブを新設する準備委員に選ばれました。

私も打合わせや会議に臨み、その間紆余曲折もありましたが、議案が出来ると即刻創立総会が開催される慌ただしさです。

年頭のためもあり、総会の司会者も兼ねて、当日の議事運営の大責を務める役となりましたが、全てが他人任せの草案審議で、暗中模索の進行でした。今に思うと汗顔の至りです。

しかし、集会の皆さんは新顔ばかりでありながら、前向きの意見と協力的発言に支えられ、新鮮で情感の溢れた温かい会議でした。

議案の修正で最大は「老人」を「シルバー」に替えた若い思想の先輩達でした。

ホワイトとシルバーでは大きな違いです。皆さんの顔は明るく、会話は終始楽しく運びました。視野の狭い私でしたから、この時ほど実社会の深く広さを学んだことはありませんでした。

これからの高齢者として人生を暮らすには、学んだ体験から、友を失わず、趣味は続け、体力を維持し、心の健康に努める事と知りました。

当時68才、今は78才、夢となりました。年の増すのが体力の限界に連がり、重荷が大きくなりました。

自分の身は信号の明るい黄色灯です。常に夢多き青に向かって行きたい。

今後とも諸先輩の指導と協力を願います。

「若返る為ぞ新年貫っとけ」 ひろし

赫々と見晴台を染め上げる

没り陽まばゆき兵村通り

魚住 和佐子



見晴台自治会創設期の思い出

初代会計部長 遠藤喜悦

昭和62年4月、当時元江別自治会の21区（約250戸）が元江別自治会から独立して、見晴台自治会を設立してから、間もなく満10年を経過しようとしているが、その間、見晴台地区は大発展を遂げ、会員数も1,350戸を越えたとのこと、地域の繁栄は誠に喜ばしい次第です。

昭和61年9月、私が現在地に引っ越ししてから暫くして、隣接地に何やら大きな建物の工事が始まった。その工事現場へ進捗状況をちょくちょく見にきていた気さくそうな親父さんと話しをするようになり、この建物は元江別自治会から分離独立が予定されている、見晴台地区の自治会のための自治会館だと教えられたが、転勤族で自治会活動にまったく縁のなかった私にとっては、何の関心も持てなかった。

その後その親父さんは、しばしば我が家に立ち寄り雑談していくようになり、私にとっても当時は周りに数軒の家があるだけの辺鄙なところで、近所に知人とてなく、退屈していたこともあり、来宅は大いに歓迎だったが、その親父さんとは当時の元江別自治会21区長の石垣準蔵さんで、見晴台自治会の設立準備委員として見晴台自治会設立時の役員候補選出の根回しに懸命に動いていたのだった。

逢う回数が増えるにつれ要請を断りきれなくなり、とうとう役員を引き受けざるを得なくなってしまった。

昭和62年4月29日、元江別21区（見晴台地区）に居住している元江別自治会の役員と班長で構成された、見晴台自治会設立準備委員会の方々のご努力による見晴台自治会設立総会が132名の出席により開催された。

設立総会は、自治会費月額（元江別自治会より50円高い400円）の設定と、自治会館の備品類（炊飯器・冷蔵庫・放送設備等）及び什器類の購入資金に充当するための特別会費として、1ヵ月100円を3年間納入する件で若干もめたものの、役員選出〔会長 石垣準蔵・副会長 印部英一・佐々木利夫・各部長・副部長全員〕を含め議事は無事終了し、見晴台自治会が誕生した。

第1回の役員会において、各部長・副部長の役割分担が決まり、私は会計部と、

自治会館の近くに住んでいるということで会館の管理を任されることになったが、その時の一般会計の手持ち現金は、設立準備委員会より引き継いだ4万円弱という心細さで、その後の収入状況はといえば、班長さんをお願いした自治会費の早期収納も思ったほど順調とはいかず、また、市からの自治会運営助成金の交付もまだ先のことだった。一方支出の方は、電気料（会館・街路灯）・水道料・ガス代等毎月決められた日に支払をしなければならないなどで、数ヵ月間の財政は赤字続きの綱渡りの連続でした。

それらと平行して進めていったのは、建物と備え付けの祭壇しかない自治会館を、福祉目的に使えるようにするための、備品と什器の整備でした。設立準備委員会より会館運営費として引き継ぎを受けた11万余円を特別会費に加えて、炊飯器・茶碗・ガスコンロ・鍋・皿等の最少限必要なものは購入し、放送設備の設置の見込みもついたものの、冷蔵庫までは到底購入できないと諦めかけていたとき、石垣会長が元町の白旗電気商会の店頭で陳列してあった中古の大きな冷蔵庫に目をつけ、店主と交渉して寄贈させると、即座にトラックを借りてきて、今は亡き田中雄一福祉部長と3人で運んできたことが、つい先日のことのように思い出されます。石垣会長のバイタリティーにはあらためて感服する次第です。これでようやく冠婚葬祭等に会館を有料で貸しても恥かしくない体制となりました。

役員の皆様に助けられながら無我夢中で過ごした1年でしたが、初年度末には一般会計・会館会計の合計の収支は60万円ほど黒字となり、63年度へ繰り越すことができました。創設時の貧乏を思うと夢のようでした。

昭和63年4月の第2回総会において再任されて、更に2年間務めることになったが、班長さんが集金して届けてくる自治会費受領のためと、会館使用申込み事務等に備えて、家を留守にできない拘束された暮らしは相変わらずながら、仕事にも慣れてきたこともあり、会館使用上のトラブルや、集金された会費が届かないという事故などがあったものの、何とか解決し、大過なく任期を満了することができました。

自治会の運営に3年間かかわったお陰で、友人・知人も多数でき、それが老後をむかえた私にとっては大きな財産になりました。今ではありがたいことだと思っています。

当時お世話になった方々へあらためてお礼申し上げるとともに、皆様方の益々のご健勝と、見晴台地区の一層の発展を祈念いたします。



初代婦人部長として

池田和子

正しき人生を生き抜く為が一番大切なものは何か！ それは「良き人」との付き合いであると、何かで読んだことがありましたが、初代婦人部長として、なんの力もない私が3年間「良き人」とのかかわりの中で、楽しく思い出に残る活動をさせていただいた事に、今も会員の皆様に深く感謝しております。

昭和62年、元江別自治会より分割はいたしましたものの、初年度は、敬老会や婦人部研修旅行等は合同でさせていただきました。それが昨日の事のように懐かしく思われます。

特に、波乱の人生の中で磨き抜かれ、鍛え抜かれたシルバーの方々との出会いは、両親のいない私にとって、いまでも大切な宝となっております。

これからも見晴台の住民としての誇りをもち、病人を抱えてはおりますが、健康で看病できる事に感謝しながら、一日一日を大切に生きて行きたいと思っております。

『人間性豊かな優しい心の通いあう地域に』

見晴台自治会の益々のご発展を心より祈っております。



2代婦人部長

鈴木春江

私が、婦人部長・副部長として微力ながらお手伝いさせて頂いた5年間は、盆踊り敬老会・新年会・町内清掃・廃品回収等々の行事で、苦勞しながら班長夫人の協力をお願いして人手を確保したことや、婦人部研修旅行で楽しく過ごしたことが思い出されます。

私自身が関わった自治会活動は、全てが勉強のつもりで参加しました。

各部のお手伝いの中心は、婦人部の力が大きいところです。

経験してみると、計画・実行は難しいのですが、現役員の皆様、ボランティア精神を忘れずに、これからも頑張ってください。



見晴台自治会満10周年 おめでとうございます

3代婦人部長 常見仁子

見晴台に住をかまえて早くも11年目を迎えました。

当時とは比べられない程世帯数も増え、見違えるようです。

引っ越して来た当時は、見晴台自治会もまだ設立されていなくて、対雁自治会にお世話になっていました。

その間、対雁では班長、区長、育成部を、見晴台ができてからは婦人部に籍を置くこと8年間自治会活動をさせていただき、随分と勉強させていただきました。

役員を引き受けていただいた方々の中には、悠々自適な生活を送られている方、現役で仕事をされている方、仕事と主婦を両立されている方、さまざまな家庭生活を送りながら、自治会活動をされている方々を「あの人は（自治会活動を）好きだから」と一言で言うのは、あまりにも短絡的ではないかと思えます。

家族の理解、思いやり、周囲の方々の励ましがあって、責任の重い職務を精力的にこなせるのではないかと思えます。

各部が開催している各種行事のお手伝いを婦人部が精力的に行っています。家庭と両立しながらの活動には大変な努力が必要です。

活動を通じて知り合った友人、知人、おそらく一生住んで付合わなければならない人たちだと思います。大事にしなければと思います。

わたし自身は役員を引退させていただきましたが、これからも自治会の会員としてお力になればと思います。『婦人部がんばれ』

冬木立へ映りし夕日落ちゆくを

一幅の画と見紛うて立つ

自分史を紡いで生きよう今日の日をぐ

夢は明日へ信じてたくし

伊藤礼子



10周年を迎えて

4代婦人部長 山本由美子

まだ、周りが草っ原で少なかった世帯が、あっという間に1,400余世帯にもなりました。いま自治会は、この全世帯を中心に成り立っています。

大きくなればなる程、一つに纏まることが大変です。でも、新しい人達が一人でも多く足を運び、行事に参加し、楽しく協力できる自治会になってほしい。

又、先輩達がいろいろ苦戦して築いてきた道を、次の代に引継ぎたいと思います。

今は若い自治会ですが、伝統を持った力強い自治会になって行って欲しいと思います。そんな自治会になれるように、いまこの時は「何が一番大切なのか？」をかみしめて、一つ一つの行事を通じて、人と人とのふれあいを大切に思い、婦人部は皆様のお手伝いをしていきたいと思っております。

これからも皆様で盛り上げて下さいますよう、よろしくお願い致します。

年ごとに授けられつつ文化の日

若き息吹きにひたり居る吾

常見 莉美

北国へ梅の香りりも運びこよ

咲くさまうつすテレビの電波

千恵子

自治会創立10周年を祝して



見晴台シルバークラブ

副会長 岩崎 豊子

同 沢本 清

自治会創立10周年おめでとうございます。

10年前、250戸たらずであった自治会が、皆さんがどんどん増えて、自治会が大きくなるだろうと、予想はしておりましたが、こんなに早く大きくなるとは思いませんでした。

それだけに、自治会役員の方もそれに対応するのに、大変ご苦勞様であったと思います。

シルバークラブも、自治会に産婆役になっていただき創立されて、自治会より1年おくれの明年10周年を迎えます。

シルバークラブも、何か記念になるものを、やってみたいとは考えておりますが、自治会の援助なしでは、年金生活者がほとんどの会員から、特別徴収してまでとなると、意見も分かれることも予想されますので、今からじっくり考えたいものです。

シルバークラブの会員は、自治会の会員でもありますが、親であり、兄であるとも思っております。

これからも、ご指導ご支援よろしくお願い申し上げ、自治会がこの節目の10周年を機に、益々発展することを期待し、お祈りしながらお祝いのことばとさせていただきます。

なお、本来ならば、シルバークラブ会長がお祝いを申し上げるべきところですが自治会長を兼務されており、会長から私たち二人に申し入れがありましたので、ご辞退申し上げたのですが是非といわれ、浅学非才をかえりみず、したためた次第です。

妻からの感謝状



3区2班 佐々木富士子

自治会ができて3代目の自治会長に推薦されたとき、この話は安易にお引き受けすることは出来ない、夫は私や娘夫婦に相談されました。そしてシルバークラブの人生経験豊かな2・3人の方にも相談したり、いろいろな方とお話をしました。

結果的に夫の健康に配慮しながら、地域の皆さんと共に考え、役に立つ事になればと、お引き受けすることになりました。

会長5年間、振り返ってみますと、楽しい事も、悲しい事も多くありました。

幼稚園児の交通事故死亡、園児の家の玄関で、うなだれている園児のご両親、夫が急を聞き行くと、女の児の側には赤いランドセルが置いてありました。4月新1年生に入学することを楽しみにしていたとのことで、涙が出て仕方がなかったと聞き、娘と涙したことが思い出されます。

又、最愛の妻を残し突然死された方、夫を残された方、若くして家族を残された方、86才のおばあちゃんの、信念のある人生に、遺族が誇りをもって語っていたこと等々、過ぎ去って見れば、社会的には人生の縮図かも知れませんが、どうか悲しみを乗り越えて生きて行ってほしいと願っています。

夏の強風雨の時、或いは冬の豪雪の中、毎月何回かの役員会があり、お集まりの皆さんが無事帰宅されるまで心配であったろうと思います。中には働いている方もいて、午後7時から役員会なので帰宅時間が遅い時もあります。

家では無口な夫が、目を閉じて何か考えている様子、何か話をしてもらえたら、少しは気が楽になるのではないかと思うこともあります。

遅くなって帰宅する夫、そして入浴好きな夫に、お風呂でリラックスし、湯上がりに冷えたビール、夕食の接待、更に床に入って、寝息がすぐに聞えるとよいが、

朝方までよく眠れないと云う事があると、食事のバランス、或いは体調が悪いのではと思う事もあります。

会長になってすぐ会館増築問題、平成8年は会館床下修理のことで、常見総務部長と市役所その他関係の所へ何度も足を運びました。

要請し帰宅した夫にご苦労さまと言って、お茶とお菓子を出す時、顔色を見てその日の成果を占うこともあり、「うまい…」と言って戴く様子に、成功があったのかと思うこともありました。

それも無事に済み、全てがその時々の方々の皆様、地域の皆様のお陰と、いつも感謝しております。

今は、10周年記念誌の事で、何時間も閉じ籠りきりで、スタッフの方やOBの方、各部の部長さんに原稿や写真の依頼電話をしたり、打ち合わせに出向いたり、いろいろと案を考えているようです。

社会に対する恩返しだといって、律義な夫は自分の家庭より自治会、シルバークラブ等にボランティアとして働いているようです。それは何よりも健康であつての事で、風邪もひかず元気でやっている様ですが、生身の体であります、体調を考え進退を考えて頑張してほしいと念じております。

今までの夫の働きに、先ずは感謝したいと思います。

これからも、皆様助け合いながら、明るく、住みよい見晴台でありますように、お祈り申し上げます。

風あらし煉瓦の街に住み馴れて

三十余年ここも古里

魚住和佐子

7. 資料

(1) 昭和61年10月5日付 北海道新聞（抜粋）

著作権の都合上、掲載できません。
ご覧になりたい方は事務局開設日に自治会館へお越しください。

(2) 平成3年8月30日付付 北海道新聞 (抜粋)

著作権の都合上、掲載できません。
ご覧になりたい方は事務局開設日に自治会館へお越しく下さい。

39ページからの規約等の資料は掲載しませんでした。
65ページからの会員名簿は個人情報に該当しますので掲載しませんでした。
ご覧になりたい方は事務局開設日に自治会館へお越しく下さい。

編集あとがき

見晴台自治会が誕生して、10周年という節目にあたり、「記念誌」を発刊する運びとなり、経験不足の4名が進めてまいりました。

暗中模索からの出発で、資料の殆どが皆無の状態から過去の議案書を引張りだし、記憶をたどり、既刊記念誌をむさぼり、先輩の話に耳をかたむけ、一応格好だけ整えたつもりですが、まだまだ満足なものではありません。

お祝いのことばをいただいた、江別市長小川公人さん、自連協山田会長さんをはじめ、資料の提供をいただいた方々、そして、ワープロを引受けてくれた伊藤勝義さんに、編集委員一同心から感謝申し上げる次第であります。

満足でないものを、お届けするのは心苦しいかぎりではありますが、発刊の趣旨をお汲みとりいただきまして、今後の自治会活動の推進に特別のご配慮を賜わりますよう、お願い申し上げます。

平成 9年 4月 1日

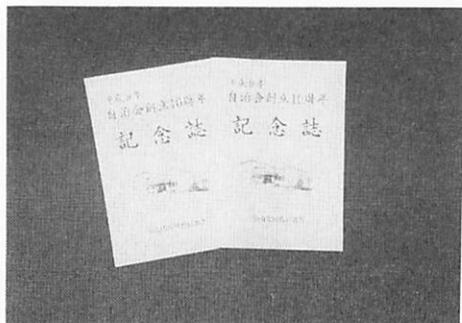
創立10周年記念誌

編 集 委 員

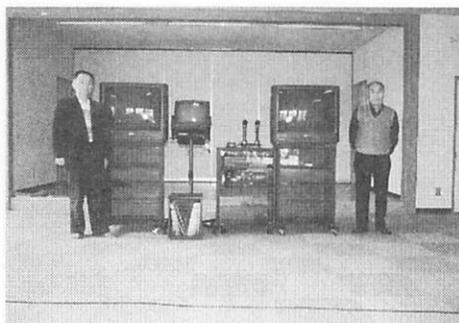
佐々木利夫
市川一夫
西村光治
魚住和佐子



◎ 自治会創立10周年記念関係アルバム



記念誌



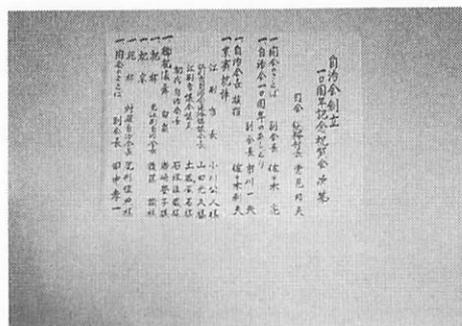
カラオケ器機



第11回定期総会



10周年記念祝賀会



祝賀会次第



佐々木自治会長挨拶



小川江別市長祝辞



山田自治連会長祝辞



土蔵市議祝辞



石垣初代自治会長祝辞



祝賀会風景